

会 議 録

1 会議名

令和4年度第7回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・くわどり湯ったり村の今冬の営業について（公開）

【協議事項】

- ・「地域活性化の方向性」の検討について（公開）

3 開催日時

令和4年12月19日（月）午後6時30分から午後7時53分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 坪田 剛（会長）、齊藤徳夫、佐藤寿美子、佐藤峰生、
平野コトミ、水寫豊秋（欠席者6名）
- ・施設経営管理室： 竹下室長、杉山主事
- ・リフレ上越山里振興株式会社： 平井社長
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、
千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：齊藤委員に依頼

議題【報告事項】くわどり湯ったり村の今冬の営業について、担当課へ説明を求める。

【施設経営管理室：竹下室長】

- ・挨拶

【リフレ上越山里振興株式会社：平井社長】

- ・挨拶

【施設経営管理室：竹下室長】

- ・「谷浜・桑取区地域協議会 資料」（当日配布）に基づき説明

【坪田会長】

説明に対し、質疑を求める。

【水嶋委員】

唐突な話で驚いている。この額を返還すると今までの財務状況はどうなるのか。前回の報告時に黒字になってきてよかったという意識があったため、誠に残念に思う。今、職員一人の方の行動と報道されているが、約2年間まったく発覚しなかったのは、財務をきちんとみている人がいなかったのか。市の担当もいるわけだが、その辺はどうなっているのか。

【施設経営管理室：竹下室長】

今後については、今、弁護士が詳細な調査を実施しており、会社ぐるみなのか、特定の人なのか、そういったことも含めて、調査結果を待たなければならない状況である。市としてもそのように考えている。

会社の財務状況が非常に厳しいので、返還をどうするのかについても、会社として、役員の方々が対応をしっかり検討されるということを市は聞いている状況である。

雇用関係助成金の不正受給がなかなか判明しなかったことについて、会社として、また、市としてどうして見抜けなかったのかという指摘があるかと思うが、市としても弁護士と相談しながら、市の対応に不備があったのかどうかも調査している。ただ、1つ言えることはコロナ禍の状況の中で、会社を潰さないために全国の中小企業が雇用調整助成金等を積極的に活用する状況だった。そこが緩やかになってきた段階で、改めて労働局が調査した結果が今このような状況になっている。

【水嶋委員】

これだけ報道機関等で取り上げられると、イメージが良くない。せつかく少し上向きになってきて客足が戻ってきたかと思っていたところに、こういったことがあるとイメージダウンするので、なんとか挽回して存続できるようにいろいろな知恵を出してもらいたいと思う。

【リフレ上越山里振興株式会社：平井社長】

地域全体もそうだが、高齢化ということで、地元の方々の拠り所として何としてもあの施設は残していきたい。この辺は市と綿密に打ち合わせをしながら、いい方法を探っていきたいと思っている。今の時点の原因究明の調査を弁護士に依頼してある。

【坪田会長】

他に質疑を求めるがなし。

次に、くわどり湯ったり村の冬季の営業について、担当課へ説明を求める。

【施設経営管理室：竹下室長】

冬の営業についても今回の案件をふまえた中で、市として会社と協議をして、改めて皆さんにその結果を報告に上がりたいと考えている。

【坪田会長】

説明に対し質疑を求めるがなし

— 施設経営管理室、リフレ上越山里振興株式会社 平井社長 退室 —

次に、【協議事項】地域活性化の方向性について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

10月に開催した第6回地域協議会の協議では、地域活性化の方向性の構成要素について「このままでよい」と「少し整理した方がよい」との両方の意見があった。今後の進め方について「北諏訪区のように地域協議会だよりで住民の意見を聞きたい」「町内会長から住民の意見を取りまとめてもらっては」などの意見が出ている。

11月開催予定であった協議会を延期する際に、会長と相談し、かたちは異なるが「地域の声を聞きたい」という委員の意見があることは確かなので、北諏訪区のように地域協議会だよりで意見を募集することとした。12月25日に発行する地域協議会だよりで意見募集を行う予定であるため、ご承知おきいただきたい。

また、前回の意見を基に文言の修正などをして整理し直したものが、資料No.1【修正版】谷浜・桑取区地域活性化の方向性の構成要素（案）である。本日は、前回欠席された委員が多かったので、追加等の意見を伺った後、構成要素や今後の進め方「地域の意

見を集約する方法」について協議いただきたい。

【坪田会長】

前回欠席された委員に、地域活性化の方向性の構成要素や今後の進め方について、意見を求める。

【齊藤委員】

移動する際に車の利用が多いと思うが、近くに寄らないと看板の存在がわかりにくい。例えば、中桑取がこの辺だというのはわかるが、高住から行くのか、西戸野花立のほうから行けるのかといった道順を知りたいと思ったときに小さな看板しかない。いろいろな取組がなされているので、それをある程度PRしたらよかったのではないかと考えている。

【坪田会長】

設置した際には、こんなに状態になるとはわからなかったと思う。現実はどうも過疎化して今の状態になっているが、それに気が付いた地域づくり協議会の皆さんが、今、盛んに看板を取り付けたり、地図を作ったりという活性化のための活動をしている。確かに、観光地でもないのに看板をどうだろうと言う人もいるだろうし、地元だけで活性化を求めて、谷浜・桑取区としてやってきた。これだけ人口が減少して何もないのに、これからどのようにして活性化するのかといった意見もあった。確かにそれも一理ある。より一層地域を高めて、地域を守っていくための活性化を求めているため、なかなか難しいが皆さんから知恵を伺いながら、何とか進めていけたら有難い。前回、活性化の方向性について意見等を出し合うとともに、北諏訪区協議会だよりを参考にとりあげられた。熟知しているNPO法人と意見交換してはどうかという意見があったので、この間、別の機会にNPO法人の方にお会いした際に前回の資料を見ていただきながら話をした。なかなか間口が広いので、これだけ広いとどれをとって、何をしようかという部分がわからないという話をいただいた。日を改めてNPO法人の事務局へ伺い、担当の方2人といろいろな意見を出しながら話をした。その中では、冒頭に地域活性化とは何かと、逆に問われた。観光が伴って人が出入りすることが活性化なのか。それとも、空き家があって空き家対策をして、地域の住民が少しでも増えることが地域活性化なのか。ただ、人を呼んで施設を通り過ぎることが活性化なのか。その活性化の部分を問われたときに冷や汗が出た。だから、いずれにしても、話はしたが、若い人がいなくなるとか、学校がなくなる、空き家が増えてしまうとか、いろいろな理由があるが、何をしたら活性化

かと言われると難しいと感じた。ある程度、地域協議会の中でも煮詰めた中で、具体的に取り上げられるものがあれば、NPO法人のほうでも、参考になるかはわからないが地域協議会に来て相談にのるという回答もあったので、私たちも練りながら、また内容がある程度方向性が決まったら、また相談したいということで話が終わった。

それから町内会長や各団体と意見交換してはどうかという話もあったが、これまでそのような会議を開いて、何か意見を聞いても、今までの例からいうと、なかなか意見が出なかったり、内容がまとまらなかったりした。今回は、毎月25日発行の地域協議会だよりで地域の皆さんがどのような反応を示してくれるか、その結果を待ちたいと思う。その結果を踏まえて協議をすることになると思う。

それでは、構成要素や今後の進め方について、委員に意見を求める。

【佐藤峰生委員】

活性化とは、現状をゼロにした時に、そのゼロからどれだけプラスの変化があったかだと思ふ。修正版の構成要素は非常によくまとまっていると思う。これを地域の皆さんが見て、この中の1つでも実施できれば、それはプラスの変化である。その変化がどれだけ多くなるか、或いは、どれだけたくさんの方が参画できるか。そういう取組だと思ふ。地域の中で取組の優先順位をつけて、今年、来年、再来年とすることも一歩前進だと思ふ。それをするに当たってどうするか、誰が集まるかを話し合うことも一歩前進である。何をやるか。誰がやるか。どうするか。それを考えることが活性化だと思ふ。プラスの変化である。そういう視点で見たい。

【坪田会長】

そこに持っていくための選別や、煮詰めることが必要になる。

【佐藤峰生委員】

この中から地域の人たちがどれを選ぶかだと思ふ。そう考えれば、間口が広くても良いのではないか。地域の人に活性化の方向性として何をやりたいかと投げかけた時に返ってくるものがないと思ふので、これを取組の案として選んでもらえば決定する。それが地域の決定事項である。会長には、これを実現するためにどうするかという意見をまとめてほしい。全部一気にやれと言っているつもりは勿論ない。

【坪田会長】

ひとつひとつ進めていくことによってできていくことだと思ふ。地域の意見も求めているが、地域協議会委員の中でもまとめることが必要だと思ふ。

【佐藤峰生委員】

今後のくわどり湯ったり村が心配である。この地域協議会でたびたび議論されており、地域の中で非常に大切な施設であるという認識がある。くわどり湯ったり村には宿泊施設があるので、来訪した人たちに泊まっていただく。それを最終ゴールとしたときに、今ちょうど、鮭が遡上する季節なので遡上に例えると、日本海からこの県道を桑取方面へずっと上っていく。非常に地域の魅力があるところがたくさんある。日本海、有間川漁港、それと、先日、有間川駅が映画のロケ地になった。それだけ見方によっては魅力がありファンもいる。それと鮭の加工場がある。その時期になれば人の集まる場所になる。ずっと上ってきて、中桑取に入り、城ヶ峰砦への入り口がある。さらに上ると、花桃の里がある。それと、西山寺のバス停が地域活動支援事業を活用して作られた。あのバス停は普通のバス停になってしまった。訪問した人が「何だ、これは」と驚くようなバス停になればそこが名所になる。だから、地域協議会委員が採択について協議したときに、そういうことを想定した形で、審議なり、逆提案というようなものをしていけば、県道を上りながら名所を見ながら、くわどり湯ったり村に着いて宿泊をする。そういう地域としての観光ルート、訪れる人にPRできる魅力のある内容になるのではないかな。この構成内容について、先ほど会長は絞り込んでいかななくてはいけないと言ったが、私は逆の考えである。少しでも多く実現するためにどうするかという発想だと思う。今言ったように、県道を上ってきた時にぽつんと1つしかないのでは駄目だと思う。たにはま公園も魅力である。そういうふうにして、知る人ぞ知る場所でもあるので、いくつかの項目を結びつけることができれば、30あるものが15になるかもしれないし、10のものが8になるかもしれない。そのように実現するためにどうするかという発想で検討しないと駄目だと思う。そこからスタートだと思う。検討する際に皆さんが集まって、知恵を出し合い、納得されれば、少し大変でもやってみようかということになるのではないかな。

【坪田会長】

委員の皆さんからこれだけの意見を挙げていただいた。それを生かしながら進めていくのは当然の話だと思う。観光が1つの活性化になる。その土地の知名度を上げるために人に来ていただいたほうが、より一層またそれに結びつく関係性が出てくる。だから、すべてが悪いわけではないし、すべてが良いわけでもない。谷浜・桑取に人が入り込まないことには、意見で出されている方向性の項目が生きてこないと思うので、それ

にはどうしたらよいか。

【平野委員】

活性化するにはその地域の人たちが元気でないと、ここに住んでいて「いいな」と思わないと思う。例えば、何かをするにしても、誰かが中心になってやらなくてはいけないことからすれば、住民同士が他の地区の人たちと集まった時にいろいろな話ができ、その中から広がっていくこともあるかもしれないから、住民同士が交流する行事の実施は大事だと思う。

【坪田会長】

現在いる方々が、その意識を持って活動していただかないとなかなか難しいと思う。

【水嶋委員】

活性化というのは、こうなったら本当に活性化しているとわかるものがない。一つの方向としては、地域間の交流の場を持つことが一つの活性化になるのではないかと思う。先日、南部協和会で輪投げ大会を11月に行った。普段見ない人や、話さない人と話すことができよいいイベントだと思っており、来年もできれば開催しようという話をしている。こういうことを広げていければ良いのではないか。まず、顔を合わせる事が一番大事だと思う。

【坪田会長】

輪投げ、ゲートボール等で、今いる方々が元気になっていろいろやる事が活性化の一つの引き金になると思う。

【佐藤寿美子委員】

私自身がまだ地域自体よくわかっていない部分があって、漁業組合がやっている鮭の燻製を購入して、それをまた欲しいと思って行ったが、もう販売が終わっていた。「どこへ行けば買えるのか」という話になったが「もう売ってないよ」と言われた。そういうこと自体も知らない。たにはま公園にドッグランがあるが、無料だから遠くから来ている方が多い。柏崎市や新潟市から来ている人が多いので、そういう人たちをターゲットにすることができるのであればよいのではないか。自分が桑取と谷浜地域もどこに何があるかわかっていないから、もう少し知りたいと思う。

【坪田会長】

この時期に鮭の燻製を加工する人がいてくれればありがたい。縮小化していてマイナス要素のほうが多いため、中学校もやらなくなってきているので、その辺のあり方もあ

るのかと思う。小・中学校の生徒についても地域への参画そのものが少なくなってきた。ある人は、高校・大学に進学する際に地元から出てしまうので、そのままよそに行ってしまう。なるべく子どもを抱えておいて、何とか就職等も地元から通わせるような考え方のほうが、人口が減らないから良いのではないかという人もいる。それぞれの考え方なので、なかなか難しい部分もあると思う。

【齊藤委員】

ドッグランやたにはま公園の話が出たが、若い家族連れが増えていることは確かである。無料という魅力もあると思う。他県、他市から来た人が、くわどり湯ったり村を利用するとなると、ドッグランに来た人は犬を連れているし、風呂に入るのは難しいと思う。たにはま公園は、わずかかもしれないが年々来客が増えていると感じている。そこに焦点をあてて、活性化に向けて考えてみてもいいのではないか。先ほど看板の話をしたが、城ヶ峰砦にはどうやって行くのか、たにはま公園内に看板でもあれば、「こういうところもあるのだ」というきっかけにはなると思うので、考えてみたらどうか。

【坪田会長】

地域の活性化はある程度継続性をもって進めていかなければならないと思う。それを引っ張っていく組織や団体が今は何もない状態である。ただ、これがよい、あれがよいと言っているだけでなく、各団体などと組織作りをまず始めて、そういう方々に1つ1つ活性化に向けて動いていただくことが必要になってくると思う。そうしないと、たくさん項目があるが、今までのように地域協議会への提案がなくなるので、細かい部分が見えにくくなっていく。これだけのよい意見があがっているが、誰がそれをやるのか、どの組織がやるのか。鮭の関係は漁業組合、城ヶ峰砦、花桃の里は継続性をもってやっていただくということなので、それら1つ1つが活性化に結びついて、花や実になってくれば地域の活性化になるのかと思う。なかなかまとめにくいですが、皆さんと決めていきながら、誰がやるかも考えていかないといけない。ある程度決めた中で、その方たちに協力をいただくというところまで、私たちがしていかなければならない。この中で、修正版に基づいてある程度やっていくというのがあれば、これで決定して、どういう人が適任か、私たちが実際にやるわけではないので協議を進めていきたい。

【佐藤峰生委員】

私の考えている具体的な手順だが、地域協議会だよりでこの内容が盛り込まれて、皆さんの目に留まって、皆さんの意見をお出しくださいと。当然それは個人個人の意見を

集めるのではなくて、町内単位である。町内会長からまとめてもらって、町内会長がまとめたものを町内会長連絡協議会で一つの議題として、ある程度の絞り込むのか、方向性づけになるのかはわからないがある程度どうしましょうという話になると思う。誰がどのようにするか議論する必要がある。第一ステップは皆さんの意見を聞く。意見を集めたものを集まってどうするか方向づけをする。先ほど、私がプラスの変化と言ったが、半歩でも1歩でも前に出ることだと思う。それを繰り返していけば実現になる。それを地域協議会委員が、それぞれの団体なり、集まりでどういうふうに関わっていくか、これから具体化しないといけないと思う。

地域協議会委員が考えたものを皆さんに提示し、その意見を集める。ここまでは今回、地域協議会だよりを配布するので決まっている。次に町内会長にいつ集まってもらうか。その時に地域協議会と一緒に合同でやる。又は、別々でやるか方法を決めればよいわけである。決まったらその次にどうするか。その繰り返しだと思う。だから、大変なのではなく、今言ったように一つ一つ前に行くということを決めればよいだけのことだと思う。

【坪田会長】

町内会長に集まっていただいて、進めていかなければいけないかと思うが、なかなか難しい。

【水嶋委員】

町内会長連絡協議会の機能を現在、谷浜・桑取地域振興協議会が果たしているが、振興協議会では、皆が意見を出してそういうことを行ってくれるだろうか。振興協議会はほとんど集まる機会もない。その中で、この話を出しても、私は意見が出るように思えない。他団体に議論してもらうにしても、この協議会が関わらないというわけにもいえないと思う。また、一つの団体だけではなくて、ある程度の団体が集まって行わないと極端な意見ばかりでも困る。意見が出ればいいが出なければ話は前に進まないと思うので、ある程度、地域協議会が引っ張らないと難しいのではないか。

【坪田会長】

各組織、団体にも内容について示しながら、協力を求める形を考えているが、なかなか地域協議会そのものを理解してもらっていないのが現状である。マイナスに考えてしまうと全てが駄目になってしまうので、前向きでいかないと地域の活性化に結びつかない。今後、担当部署のような感じで携わっていただける方を求めていかななくてはならな

い。今まで、何かをやりたいので提案をして、それを地域協議会で協議、採択して予算を決めていたのが、今度は逆にこちらから攻めていかないといけないが、なかなか攻めきれない部分が出てくると思う。だから、地域協議会でも携わる部分大きい。いずれにしても、こういうものをたくさんやろうという意気込みの中で進む方法しかない。次回も同じようなことになるかもしれないが、欠席者の皆さんの考え方もお聞きしたい。委員の半分の人数で決めるのもおこがましいような気がする。修正版の中で進めていくことに変わりはないが、欠席者の意見も聞いて進めたい。

【佐藤峰生委員】

私が感じているのは、今日の会議も前回の会議も、ほぼ同じだと思っている。無駄に集まるということに繋がるので、最後は必ず次どうするかを決めたらどうか。地域協議会だよりに載ることは決まっている。それをどうやって集めるか。その集めるタイミングでこの地域協議会を開く。そこで何をするかを決めるのはどうか。

【千田主任】

住民の方の意見については、ファックスやメール、ホームページでも回答できるようにしている。アンケートの締め切りが1月20日までなので、今回はそれ以降に開催したい。

- ・次回地域協議会：1月31日（火）午後6時30分～

【坪田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp 1

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。